

## 外務省

現役医系技官の声  
13

### 保健 × 外交の醍醐味

外務省は外交の柱の一つとして国際保健を位置付け、厚生労働省など関係省庁、機関と連携しつつ、長年の国際協力の実績や、健康長寿国を築いた日本自身の知見などを背景に、G7、G20、WHO総会、国連総会などの場で、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)をはじめグローバルヘルスの議論を主導してきました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発生後は、ワクチン普及などの国際協調の枠組みやWHOの検証に対しても、外交的観点から積極的に貢献しています。COVID-19を受け国際政治をも巻き込んでグローバルヘルスのランドスケープが大きく変わりつ

つある中、保健医療政策と外交、双方の論理と作法を理解し、日本と世界の公益を調和、最大化することが一層求められています。志を共にする方の参画を心待ちにしています。

#### 今までの業務や体験

国連代表部時代には、国連総会で結核、UHCの二回の首脳会合の取りまとめ役として国連大使を補佐し、193か国の合意に導きました。国連総会での合意の瞬間、総理のUHC会合閉会演説終了時、故中村哲先生の偉業を讃え哀悼の意を表した演説(写真参照)も一生忘れることはないでしょう。



外務省国際協力局  
国際保健政策室長

江副 聡

EZOE Satoshi

平成14年入省後、医療安全、診療報酬、精神保健、がん対策等を担当。ハーバード大留学(行政学修士・公衆衛生学修士)、国連合同エイズ計画(UNAIDS)を経て、国際保健企画官としてWHO等を担当。国際連合日本政府代表部参事官を経て令和2年より現職。



国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
疾患基礎研究事業部長

日野原 友佳子

HINOHARA Yukako

平成21年入省、健康局総務課で原子爆弾被爆者援護施策や同年発生の新型インフルエンザ対策に関わった後、老健局老人保健課で介護予防を担当。続いて消防庁救急企画室にて救急搬送業務に携わる。2年間の英国留学等を経て令和2年8月より現職。

## 日本医療研究開発機構

現役医系技官の声  
14

### 日本の医療関連研究分野のスピーディな発展を目指して

日本医療研究開発機構(AMED)は、医療関連研究の一元化を行い、基礎から臨床へのスムーズな橋渡しや、国際水準の臨床試験・治験を確実に遂行するシステムを目指し、平成27年に発足したばかりの独立行政法人です。

担当の疾患基礎研究事業部では、基礎的な段階の研究課題を中心に、がん、生活習慣病、精神・神経疾患、老年医学・認知症、感染

症など幅広い疾患や病態を対象とした研究支援を行っています。特に基礎的な段階の研究には探索的な研究、try&errorも多く存在します。そうした研究領域自体の性質を理解しつつ、少しでも早く臨床現場に還元できる成果を求めることは、ある意味矛盾もはらんでいるとも言えるわけで、難しさとやりがい双方を感じつつ、日々取り組んでいます。

#### 今までの業務や体験

早いもので入省12年目、振り返れば各業務で忘れ難い思い出があります。ただ個々の体験もさることながら、その変遷の中で思いがけない再会や各業務間のつながりを感じる機会も度重なり、これが一番の醍醐味かと、つくづく感じる今日この頃です。